

パネルディスカッション「高度進行肝癌の集学的治療」

司会：國土 典宏 先生（NCGM 国立国際医療研究センター）

伊東 和樹 先生（肝臓病・子育てよろず相談 伊東クリニック）

【司会の言葉】

脈管侵襲や肝外転移を伴う高度進行肝癌の成績向上のためには最近進歩の著しい薬物療法を活用した集学的治療に期待が寄せられる。脈管侵襲を伴う肝癌に対する治療法として肝癌診療ガイドライン 2017 年版では TACE、肝切除、肝動注、分子標的薬の 4 種の治療法が同列で推奨されたが、その守備範囲は腫瘍栓の進展度、肝予備能によって少しずつ異なり治療者の裁量幅も大きい。また複数の治療法の組み合わせや推奨に組み入れなかった放射線治療や粒子線治療についてのエビデンスも少なく、これからの検討が待たれる。肝外転移に対する治療は分子標的薬のみがガイドラインで推奨されているが、免疫チェックポイント阻害薬や他治療との組み合わせも今後期待される。治療の選択肢が多くなるなかでどのようなエビデンスを構築すべきか将来にむけての議論を期待したい。